

## デイリー・ジーザス・ニュース #266

受難週の火曜日…試練と教えの日

イエスの公の宣教はエルサレムに対する三度目の嘆きで終わる  
MT 23. 37-39 (並行テキスト : MK 13. 31-35)

37 「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、あなたがたに遣わされた者たちを石で打ち殺す者よ、めんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたの子らを何度集めようとしたことか。しかし、あなたがたは応じなかった。

38 「見よ、あなたの家は荒れ果てたまま残される。39 わたしはあなたに言う、『主の名によって来られる方に祝福があるように』と言うときまで、あなたは再びわたしを見ることはないだろう。」 (詩篇 118. 26A)

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階: 受難週
	C. 火曜日: テストと指導の日
タイトル	16. イエスの公の宣教はエルサレムに対する三度目の嘆きで終わる

コメント:

イエスは宣教における最後の公のメッセージと救いへの招きをちょうど伝えただけでした。彼は神殿の宝物庫にある神殿の中庭に立っていました。

宣教活動を始めるまで30年も待ち、40ヶ月に及ぶ個人伝道と集団伝道 (ユダヤ人の同胞全員と数え切れないほどの異邦人に1万時間以上福音を宣べ伝えた) を終えたばかりのイエスは、父なる神から与えられた伝道の使命を終えたと悟った時、何を心に抱いていたのでしょうか。それは深い悲しみでした。

これは私たちの主について多くのことを物語っています。いつものように、彼は自分のことばかり考えていませんでした。

少し時間を取って、彼の功績を振り返るのは当然のことだったでしょう。彼は世界史上最大の説教の働きを成し遂げました。その40ヶ月の間に、ほとんどの説教者が400年かけて伝えるよりも多くの人々を癒し、多

## デイリー・ジーザス・ニュース #266

くのことを宣べ伝えました。彼の言葉は世界を永遠に変え、何十億もの人々に永遠の扉を開きました。すべての言葉は愛にあふれた真実であり、誤りや言い間違い、余分な表現は一切ありませんでした。

すべては完璧でした。しかし、イエスのために安住することはありませんでした。彼の心遣いは、彼が忠実に仕えてきた人々のことだったのです。

これはエルサレムに対する主の三度目の嘆きでした。最初の嘆きは、3ヶ月前の奉獻祭のためにエルサレムに向かう途中でした ( DJN #194、ルカ13:31-35 )。主の言葉はこれと全く同じでした。二度目は枝の主日、エルサレムへの道中で群衆から称賛を浴びていた時でした。主は深く心を痛め、涙を流されました ( DJN #240、ルカ19:41-44 )。そして、三度目の嘆きは、まさにクライマックスを迎えました。

イエスは最初の嘆きと二番目の嘆きで同じ言葉を語りました。 **「あなたたちが『主の御名によって来られる方に祝福あれ』と言うまで、あなたたちは二度と私を見ることはないだろう。」**

文脈の違いによって、この言葉は異なる意味を持つようになりました。最初の言葉は奉獻祭の時、イエスは枝の主日にエルサレムに入城した時のことを指してこの言葉を語りました。群衆が枝の主日にイエスをメシアとして熱狂的に歓迎する際に、まさにこの言葉を用いたのを私たちは見ました。

しかし、その歓迎は長くは続かなかった。その後二日間、イエスは指導者たち、そして最終的には国民全体から拒絶された。使徒ヨハネが証言したように、イエス自身の民はイエスを信じていなかった。イエスは彼らに最後のメッセージを伝えただけだった。三日後、群衆はイエスの十字架刑を求めて叫び声をあげるだろう。この嘆きの中で、イエスは地上で二度と神殿に入ることはできないと告げていた。神殿は破壊され、国民は諸国民へと散らされるだろう。イエスを拒絶することは、神の国が異邦人に委ねられることを意味したのだ。

イエスは、自分を拒絶した者たちに復讐しようとはしませんでした。彼らの赦しを祈りながら死ぬ覚悟でした。彼らに拒絶され、侮辱されたことに腹を立てたわけではありません。イエスの関心は、自分に何が起きているかには全く向けられていませんでした。イエスは、拒絶が自分自身ではなく、拒絶者たちにとって何を意味するのかを知り、打ちのめされたのです。

これこそ神の栄光であり愛です。言葉では言い表せないほど聖なる、義なる行いです。私たちを最も憎む者をも愛し続ける、無私無条件の愛です。これこそ三位一体の本質であり、イエスの肉と血、そして砕かれた心の中に現れた御方です。

ここにも希望の光があります。イエスのこの言葉は、彼が最後の再臨の際に、枝の主日と同じ歓呼の中でエルサレムに戻ってくることを意味しています。 **「主の御名によって来る者は祝福される」**。しかし、今回は一時的な歓迎ではありません。この時代の終わり、イエスの最後の再臨の直前に、ユダヤ人の間で大きなリバイバルが起こるでしょう。多くのユダヤ人がイエスを救世主として信じ、聖都に迎え入れるでしょう。今回は、地上のあらゆる部族、言語、民族から来た異邦人も、この歓迎に加わるでしょう。

## デイリー・ジーザス・ニュース #266

ですから、受難週におけるイエスの拒絶は、最終的にはユダヤ人の間で、そして世の終わりにはすべての国々の間でイエスへの普遍的な賛美と崇拝をもたらすことになります。イエスはそれを信じていました。しかし、その間に愛する民に降りかかるであろう出来事によって、イエスの心は依然として打ち砕かれていたでしょう。

応用：

不当な扱いを受けたり、愛すべき人に拒絶されたりしたとき、私たちが個人的な喪失を痛感するのは当然の反応です。その痛みは、私たちに起こったことに対するものです。こうした反応は何ら間違っていない。それは、私たちが被った喪失に対する悲しみのプロセスにおいて不可欠な部分なのです。しかし、イエスは違いました。

愛は、他者が私たちが拒絶することで被る損失に対して、私たち自身も傷つく原因となります。彼らもまた、私たちが傷つけることで、自らを傷つけているのです。イエスの弟子たちは、イエスがまず私たちを愛してくださったように、他者を愛するのです。そして、私たちが傷つけた人々の損失に対して、心を痛めるほどに、敵を愛することを学びます。これは真の恵みの奇跡であり、イエスが私たちの内に生きていることの究極の証明です。

*あなた自身の損失よりも、あなたを拒絶する人々の苦しみを気遣ってくれるイエスのような恋人になれるように、恵みを祈り求めますか？*

*イエスだけが、あなたがこのように主に従うことができるようにしてくださるのです。私たち一人一人の中でこの働きを行うことが、イエスの御心です。あなたは、イエスがあなたの中でこの働きを行ってくださるよう求めますか？まずは誰から始めますか？*